

「阿久和小学校・いずみ野小学校」 通学区域と学校規模適正化等 検討部会ニュース

第1号

発行日：令和3年6月3日

第1回検討部会

日時：令和3年4月27日（火）

18時30分から

会場：いずみ野中学校 被服室

はじめに

現在、阿久和小学校は、一般学級数が6学級（小規模校）となっており、横浜市で最も児童数が少ない学校となっています。今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。そのため、隣接するいずみ野小学校との間で、阿久和小学校の適正規模化に向けて具体的に検討するため、『阿久和小学校・いずみ野小学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会」を設置し、第1回検討部会を開催しました。今後も、この検討部会での検討状況等については、本ニュースを発行し、保護者の皆様や両校の通学区域内にお住まいの皆様にお伝えしていきます。

●第1回検討部会の決定事項など●

- ・阿久和小学校の学校規模の適正化に向けた具体的な対応として、事務局から4つの検討事例（通学区域調整をした場合と学校統合をした場合）を示しました。
- ・第2回検討部会では、今回事務局から提示した検討事例を踏まえ、各所属団体のご意見を伺い、具体的な対応を協議することになりました。



1 検討部会の運営

本検討部会は、『阿久和小学校・いずみ野小学校』通学区域と学校規模適正化等検討部会運営要領」に基づき、運営していきます。

「阿久和小学校・いずみ野小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会運営要領（抜粋）

（調査審議事項）

第2条 部会は、横浜市学校規模適正化等検討委員会条例第5条第1項の規定により、阿久和小学校・いずみ野小学校に関する次の各号に掲げる事項について調査審議することとし、調査審議結果をまとめた意見書を、横浜市学校規模適正化等検討委員会に提出する。

- | | | |
|-----------------------|---------------|---------------|
| (1) 学校規模適正化に関する事 | (2) 学校統合に関する事 | (3) 使用校舎に関する事 |
| (4) 学校名に関する事 | (5) 通学区域に関する事 | (6) 通学安全に関する事 |
| (7) その他教育委員会が必要と認める事項 | | |

（会議）

第5条 部会の会議は、部会長が招集する。ただし、部会長が選出されていないときは、横浜市学校規模適正化等検討委員会委員長が行う。

- 2 部会は、部会委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席した部会委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。
- 4 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条の規定により、会議については、一般に公開するものとする。ただし、部会の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

2 検討部会の構成

横浜市学校規模適正化等検討委員会条例及び上記の運営要領に基づき、検討部会の委員は、次の方々に決まりました。また、部会長及び副部会長につきましては、次の方々に決まりました（敬称略）。

部会長	北井 義	(阿久和南部連合自治会 会長)		
副部会長	中山 懐利	(和泉北部連合自治会 会長)		
委員	川原 範之	(県営阿久和団地第一自治会 会長)	伊原 暁	(いずみ野小学校 PTA 前会長)
	河野 準	(県営阿久和団地第二自治会 会長)	星 紫保	(いずみ野小学校 PTA 副会長)
	國分 嬉蓮	(大中西自治会 代表)	待永 直昭	(いずみ野中学校 PTA 会長)
	石井 勝	(和泉三家自治会 会長)	仲澤 早苗	(いずみ野中学校 PTA 副会長)
	堀越 郁男	(和泉台自治会 会長)	菊地 信明	(阿久和小学校 校長)
	遠藤 敦	(グリーンハイムいずみ野 A 地区自治会 前会長)	齋藤 敦子	(いずみ野小学校 校長)
	大澤 明子	(阿久和小学校 AHK 代表)	川村 雅昭	(いずみ野中学校 校長)
	飯田 佳子	(阿久和小学校 AHK 副代表)		

3 阿久和小学校・いずみ野小学校の基礎情報

(1) 開校年など（令和3年度時点）

学校名	阿久和小学校	いずみ野小学校
開校年	昭和57年度（40年目）	昭和53年度（44年目）
親校	原小学校	和泉小学校
中学校区	いずみ野中学校	

(2) 今後の児童数・一般学級数の見込み^{※1}（R7までに全学年35人学級とした場合^{※2}）

阿久和小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	個別支援学級(R2)	普通教室数
児童数	69	73	68	72	76	76	69	16	17
学級数	6	6	6	6	6	6	6	3	
いずみ野小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	個別支援学級(R2)	普通教室数
児童数	313	312	308	297	287	290	279	8	16
学級数	12	12	12	12	12	12	11	2	

※1 R2は令和2年5月1日時点の実数値。それ以降は推計値（一般学級のみ）。

※2 令和3年度から段階的に35人学級を導入し、令和7年度までに全学年35人学級とします。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
国	実施済	R3	R4	R5	R6	R7
横浜市	実施済	実施済	R4	R5	R6	R7

4 阿久和小学校の学校規模の適正化に向けた検討事例

通学区域を変更する場合の関係校及び隣接する原小学校における学校規模（一般学級の児童数、学級数）の推移等を示した3つの検討事例と、阿久和小学校といずみ野小学校を統合する場合の検討事例を事務局から提示しました。

第2回検討部会では、今回事務局から提示した4つの検討事例を踏まえ、各所属団体のご意見を伺い、具体的な対応を協議することになりました。

検討事例1

阿久和小学校の通学区域に、いずみ野小学校の通学区域のうち3ページ参考地図①部分を加えた場合

児童数・一般学級数の推移（シミュレーション）

《令和4年度の新1年生から対象とした場合》

学校		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
阿久和小	児童数	69	73	78	90	116	129	131
	学級数	6	6	6	6	7	7	7
いずみ野小	児童数	313	312	299	280	249	240	220
	学級数	12	12	12	11	10	10	9

※R2は令和2年5月1日時点の実数値。R3以降はR2実数値を反映してシミュレーションした値。R7までに全学年35人学級とするものとしている。
 ※網掛け部分は小規模校（小学校は一般学級数で11学級以下）となっていることを示している。
 ※検討事例2～4についても同様。

〈効果と課題〉

- ・阿久和小学校の児童数は若干名増えるが、適正規模にならない。
- ・いずみ野小学校の児童数が減少し、令和5年度には小規模校になる。
- ・阿久和小学校までの通学距離がいずみ野小学校までの通学距離よりも長くなる地域が一部存在する。

検討事例 2

阿久和小学校の通学区域に、原小学校の通学区域のうち参考地図②部分を加えた場合（②＝東海道新幹線以南の地域）

児童数・一般学級数の推移（シミュレーション）

《令和4年度の新1年生から対象とした場合》

学校		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
阿久和小	児童数	69	73	80	90	106	113	111
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
原小	児童数	941	941	896	842	817	770	742
	学級数	29	26	25	25	25	25	25

〈効果と課題〉

- ・阿久和小学校の児童数は若干名増えるが、各学年単級の状況は変わらず、適正規模にならない。
- ・阿久和小学校までの通学距離が原小学校までの通学距離よりも長くなる地域が一部存在する。

検討事例 3

阿久和小学校の通学区域に、検討事例1と検討事例2を合わせた範囲（参考地図①+②部分）を加えた場合

児童数・一般学級数の推移（シミュレーション）

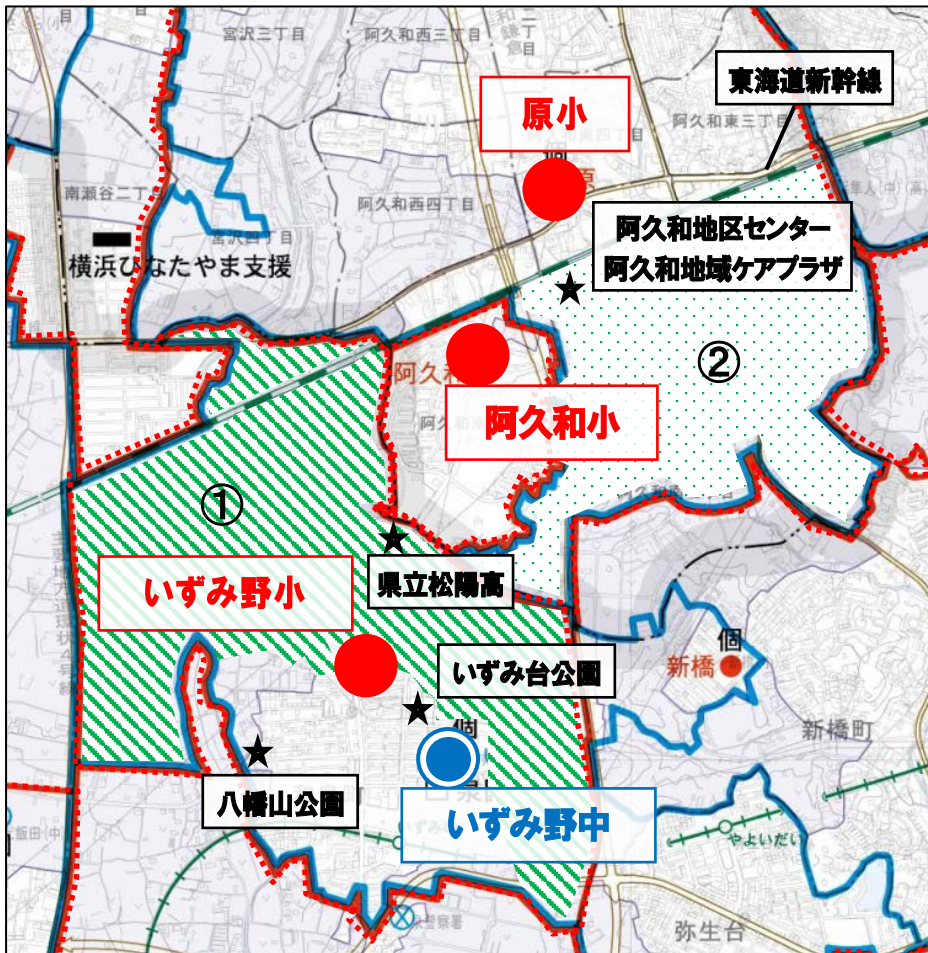
《令和4年度の新1年生から対象とした場合》

学校		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
阿久和小	児童数	69	73	90	107	145	165	173
	学級数	6	6	6	7	8	8	7
いずみ野小	児童数	313	312	299	280	249	240	220
	学級数	12	12	12	11	10	10	9
原小	児童数	941	941	896	842	817	770	742
	学級数	29	26	25	25	25	25	25

〈効果と課題〉

- ・阿久和小学校の児童数は若干名増えるが、適正規模にはならない。
- ・いずみ野小学校の児童数が減少し、令和5年度には小規模校になる。
- ・阿久和小学校までの通学距離がいずみ野小学校もしくは原小学校までの通学距離よりも長くなる地域が一部存在する。

〈検討事例1～3 参考地図〉



【凡例】	
小学校	●
中学校	●
小学校通学区域	---
中学校通学区域	—
対象区域①	▨
対象区域②	▨

検討事例4

阿久和小学校といずみ野小学校を統合する場合

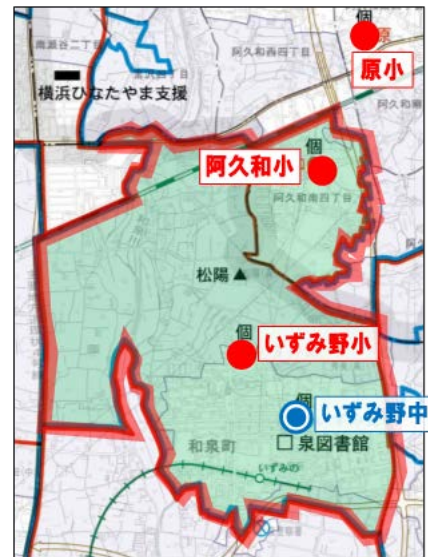
児童数・一般学級数の推移（シミュレーション）

《令和5年度に学校統合すると仮定して算出》

年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
児童数	—	—	—	369	363	366	348
学級数	—	—	—	12	12	12	12

〈効果と課題〉

- ・統合校の学校規模が適正規模校となる。
- ・統合校の使用校舎や学校名の検討が必要となる。
- ・閉校する学校施設の跡利用の検討が必要となる。
- ・学校統合に伴い、通学距離が長くなる地域が生じる。
- ・学校統合に向けて、児童等の交流などの準備期間が必要となる。



5 主な質問や発言（凡例 ☆：参加者からの発言 ⇒：事務局より説明）

- ⇒（学校規模の適正化に向けた検討事例等について、事務局から説明しました。）
- ☆ 原小学校の通学区域の中には、阿久和小学校のほうが近く、安全に通うことができる地域も存在します。そのような地域に原小学校と阿久和小学校を選択できる特別調整通学区域を設定し、時間をかけて児童数の推移を観察するやり方もあるのではないのでしょうか。
- ⇒ 特別調整通学区域の設定では阿久和小学校を適正規模にすることは難しいと考え、今回の検討部会では通学区域変更をした場合のシミュレーションを検討事例として示させていただきました。これらの検討事例をたたき台として、今回のご提案を含め、各団体から様々なご意見をいただければと思っております。
- ☆ 子どもには大人が考えている以上の適応力があります。学校規模適正化に関する検討はあまり長引かせないほうが良いと思います。
- ☆ 昔から、阿久和小学校の規模が小さくなったらいずみ野小学校と統合するという噂がありました。地域の中には今もそのように考えている方が多いと思います。
- ☆ 阿久和小学校の保護者の中には、小規模であることについて不安に思っている方もいらっしゃると思います。統合にはデメリットもあるかもしれませんが、やはりある程度的人数の中で学習することにはメリットがあると思いますし、そのようなメリットに目を向けて話し合いをしていけたらと思います。
- ☆ 小規模校には良さもあると思いますが、中学校で急に規模が大きくなるとなかなか適応できないという子どももいると思います。子どもにとってより良い方向に進んでいくことができるよう、議論をしていきたいと考えています。
- ☆ 検討部会で意見を聞くと言いながら、統合ありきの話に聞こえてしまいます。そうであれば統合の方向性で話を進めてほしいです。必要以上に時間をかけて話し合うのではなく、早く結論を出してほしいです。
- ☆ コロナ禍において、一クラスあたりの人数などを見直すことは検討されているのでしょうか。
- ⇒ 令和3年度から段階的に35人学級を導入し、令和7年度までに全学年を35人学級とするという方針が国から示されており、横浜市としても国の方針に基づき対応をしていきます（2ページ3(2)※2参照）。

◆第2回検討部会について ※会議は非公開とすることを決定しました。

- ・日時：令和3年7月8日（木）18時30分から
（延期等の場合は下記ホームページにてお知らせいたします。）
- ・会場：いずみ野中学校 2階 被服室 ・検討内容：通学区域と学校規模適正化等

◆「阿久和小学校・いずみ野小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからもご覧になれます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/akuwaizumino.html>



◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからのご意見やご質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。
横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-seya2020@city.yokohama.jp TEL：045-671-3252 FAX：045-651-1417

